

ドン底経営から這い上がり 「老舗復活」に奔走しV字回復

(株) ハナブ 商店

〔大阪府茨木市〕

瀕死状態の老舗に入社後 一念発起し事業承継を実現

大阪府茨木市を拠点に、年間250件ほどの葬儀をとり行なうハナブ商店（社長岩本元彦氏）。その創業は1893（明治26）年まで遡る。創業当初は「花武商店」と漢字表記だったが、「はなたけ」と誤読されることも多く、現在のカタカナ表記になった。

当時、茨木市の葬儀は、同社ともう1社の専門葬儀社がシェアを分け合う状況で、全盛期には月間30～40件の葬儀施行を担当。阪急茨木市駅前に花の小売店も展開（98年まで営業）するなど、堅調な経営を続けていた。

しかし、現社長である岩本氏が入社した99年には、「施行件数も月間7件ほどに落ち込み、葬儀の依頼は、古くからおつきあいのあるお客様だけという状況が続きました」と、これまでの顧客を他社に取られる低迷期が長らく続いたという。その後、さらに件数が低下していくなかで、前社長が15年9月に廃業の意向であることを社員に伝える。

岩本社長は当時を振り返り、「この老舗葬儀社が茨木の地から消え

てしまうのはもったいない。また、老舗だからこそ、そのブランド力を活かせばこの葬儀社はいま以上の実績を上げることができると思い、社長に“会社を譲ってほしい”と譲渡を申し出たのです」と語る。

その後、前社長から会社譲渡の了解を得て、新会社として活動をはじめたものの、「継承するなら古い葬儀屋から脱皮し、きちんとした体制（法人化）をつくりたい」と15年12月1日に法人登記。名実ともに新生「ハナブ商店」としての第1歩を踏み出すことになった。

市営葬儀特化を謳う宣伝で 施行件数を回復

新会社設立後、岩本社長は入社時から思い描いていた大々的な広告宣伝に着手する。これは、施行件数激減で失われた存在感をあらた

大阪府茨木市で126年の歴史を誇るハナブ商店。その老舗葬儀社を2016年に引き継いだのが、当時社員であった現社長の岩本元彦氏である。会社継承にあたり掲げた目標は“老舗復活”。ゼロからのスタートを切っては4年目。そのV字回復の勢いは止まらないようだ。



代表取締役
岩本元彦氏

■(株)ハナブ商店の概要

所在地／大阪府茨木市寺田町10-26
創業／1893（明治26）年
設立／2015年12月
代表者／岩本元彦
施行件数／約250件（年間）
<http://www.hanabu-ibaraki.jp/>

めて地域住民に知らしめることが、何よりも大切だという思いからだったという。

そして、この大々的な宣伝戦略が奏功し、同社への施行依頼も徐々に回復をみせはじめる。そこには岩本社長なりの勝算があった。というのも、「茨木市は、市営葬儀が全葬儀の5割を占める全国でも特異なエリアです。市立斎場（火葬場）には併設式場が4つあ



今年6月24日に開催された「全葬連青年部会第44回全国〈北海道〉大会」で部会長報告を行なう岩本元彦社長